



# 平成 28 年度 事業計画書

2016 年 4 月 1 日—  
—2017 年 3 月 31 日

公益財団法人  
さっぽろ青少年女性活動協会

# 目 次

I	平成 28 年度 財団経営方針	1
II	経営理念	2
III	基本方針	
IV	事業計画策定の基本方針	
	1 既存事業の強化と新規事業の開発	
	2 自主公益事業の拡充と滝野自然学園の積極活用	
	3 組織の効率化に向けた事業実施体制等の再設計	
	4 人材の育成とガバナンスの強化	
	5 収支コストの最適化	
V	平成 28 年度 事業概要	4
	1 青少年の健全育成と社会参加に関する事業	
	2 社会教育の推進に関する事業	
	3 市民活動の振興に関する事業	
	4 その他法人の目的を達成するために必要な事業	
VI	部門別事業計画書	6
	1 こども育成課・児童会館管理課（児童会館・ミニ児童会館）	〈 6- 7〉
	2 こども劇場課（やまびこ座・こぐま座）	〈 8- 9〉
	3 企画事業課（若者支援施設）	〈10-13〉
	4 企画事業課（滝野自然学園事業・イベント事業）	〈14-17〉
	5 野外活動課（北方自然教育園・定山溪自然の村・青少年山の家）	〈18-23〉
	6 市民参画課（札幌エルプラザ公共 4 施設）	〈24-26〉
VII	施設一覧	27
VIII	平成 28 年度 機構図	28

# 平成 28 年度 事業計画

## I 財団経営方針

法人を取り巻く経営環境は、日々目まぐるしく変化している。当財団においては、公益法人への移行から 3 年を経過した今、将来を見据えた安定かつ持続可能な運営に向けて、法人内部の組織体制の整備や、経営基盤の強化に積極的に取り組んでいる。

人口や世帯数が減少する時代に突入する一方、社会ニーズが多様化・複雑化する昨今、当財団においても、これらのニーズを的確に捉え、必要なサービスを具現化し、将来的な価値の創造に繋がる公益事業の拡充と、新たな事業の可能性を探っていくことが、今後益々求められることとなる。併せて、各種法令や制度の適用に伴い、人員の確保など、質・量の両面から組織体制を強化することが喫緊の課題であり、肥大化する組織の基盤を磐石にし、定款の目的達成に向けて、これまで以上に法人の組織力を生かした事業を展開していくことが、今後の法人運営の鍵となる。

このような状況のもと、経営理念・経営基本方針に基づき、法人の目的達成のための創造性を発揮するとともに、戦略的投資を念頭に、今後の事業展開を見据えた効果的な予算編成と創意工夫を凝らした事業計画を策定するものとする。

## Ⅱ 経営理念

### 「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与します。

## Ⅲ 基本方針

1. 青少年の健全育成と社会参加の実現に寄与する
2. 市民活動の振興及び社会教育の推進に寄与する
3. 将来を見据えた組織力の強化を図る
4. 自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により安定した法人経営を行う
5. 組織の活性化・効率化に向けた改革を行う

## Ⅳ 事業計画策定の基本方針

1. 既存事業を強化するための戦略的投資
2. 公益事業の拡充
3. コンプライアンス意識の向上と組織体制の整備
4. 人材の確保と人材育成
5. 経営基盤の強化

## IV 事業計画策定の基本方針 《内容》

### 1. 既存事業を強化するための戦略的投資

財団が継続して事業活動を行うためには、既存の事業を着実に遂行し、実績を積み重ねながら社会の信頼を勝ち得ていくことが必要不可欠であるが、同時に、社会のニーズをいち早く察知し、当法人だからこそ提供可能な事業の独自性を、具体的に事業を通じて生み出し、実現していく必要がある。また、指定管理事業等の複数年度の契約を結んでいる事業にあたっては、既存事業の強化に繋がる戦略的投資（人材投資及び新規設備投資等）を引き続き実施するなど、先を見据えた取り組みを推進する必要がある。

過年度の収支状況を踏まえ、各課事業においては、既存事業の強化に繋がる戦略的な投資を検討して事業計画を策定すること。

### 2. 公益事業の拡充

これまで積み上げてきた実績やノウハウ、スケールメリットを最大限に生かしながら、指定管理事業のみに依らない各種公益事業を実施するためには、現行の各種事業を各課単位で検証し、事業実施の可能性をさらに探っていく必要がある。

当財団の設立趣意や定款に基づく、現行の公益事業を対象者及び実施エリア等の拡大も含めて検討し、財団の保有する既存資源等を有効に活用した新たな公益事業の実施に向け、平成28年度は、今後、これらの具体的な取り組みを行うことを念頭に事業計画を策定すること。

### 3. コンプライアンス意識の向上と組織体制の整備

マイナンバー制度の施行や法人事業規模の拡大に伴い、法人内外における個人情報取扱件数が増加し、その管理方法も厳格になるほか、職員一人ひとりが法令等（定款、規程等を含む）を遵守し、倫理に沿って業務を遂行することの重要性が益々問われていく。公益法人として求められる社会的責任や信頼を職員一人ひとりが再認識し、リスク管理やコンプライアンスに対する意識の向上を図るよう取り組むこと。また、組織の肥大化に対応し、将来に向けた法人運営の安定化を図るため、組織体制のさらなる整備を行うこと。

### 4. 人材の確保と人材育成

組織パフォーマンスの向上、職員の能力の発揮を引き出す組織風土の醸成に向けて、職員採用から人事異動、研修、評価、処遇等の各種制度を引き続き見直すとともに、事業の推進力を生み出す有能な人材の確保ならびに育成に向けて、具体的な方策を含めた事業計画を策定すること。

### 5. 経営基盤の強化

公益財団法人として適切かつ継続的な事業を展開していくため、事業単位ごとの収支状況を適宜把握しながら、効率的かつ効果的な運営を行う。指定管理業務4年間や委託業務を総合的に捉えたコストを意識し、必要に応じて計画的な事業投資を行い、事業収支の適正化を図ること。



## V 平成 28 年度 事業概要

### ■事業区分

#### 【定款第 4 条】

#### (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業

#### (2) 社会教育の推進に関する事業

### 公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

#### 子ども育成事業

##### (1) 青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業
- ・学習活動事業
- ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業
- ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

##### (2) 体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業
- ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

##### (3) 施設管理運営事業

- ・管理業務、貸室等

#### 若者自立支援事業

##### (1) 体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業
- ・ボランティア参加事業 等

##### (2) 受託事業

- ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

##### (3) 調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

##### (4) 施設管理運営事業

- ・管理業務、貸室等

#### 自然体験活動事業

##### (1) 滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業
- ・職員派遣事業
- ・情報発信事業
- ・団体支援事業
- ・施設管理運営事業

##### (2) 北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

##### (3) 定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業

##### (4) 青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業
- ・団体支援事業

【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- |            |                  |            |
|------------|------------------|------------|
| (1) 活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業     | ・ 市民活動関連事業 |
|            | ・ NPO活動支援事業      | ・ 相談、支援事業  |
| (2) 職員派遣事業 | ・ 大学、専門学校他への職員派遣 |            |
| (3) 情報発信事業 | ・ 各種情報誌の発行事業     |            |



【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業



他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家  
の管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における  
公益目的外での施設貸与事業

## VI 部門別事業計画書

こども育成課・児童会館管理課

児童会館・ミニ児童会館

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動に関する事業



事業方針	子どもが輝く活動拠点を 地域とともに目指す。	
重点目標	地域活動等事業	<p>札幌まなびのサポート事業への取り組み</p> <p>①学習の機会を提供することにより学習習慣を身につける。</p> <p>②継続した学習支援をとおして基礎学力の向上を目指す。</p> <p>③自尊感情や自己肯定感を高め、中学生の居場所としての機能を充実させる。</p> <p>④事業拡大の見込みもあることから、家庭や中学校を含めた外部機関との連携強化、類似事業実施団体等との情報交換など、より広い視野をもって事業を展開していく。</p>
数値目標	施設運営等事業	<p>①労務管理システム導入に向けた取り組み</p> <p>子ども子育て支援法の施行および、管理運営施設の増加に伴い職員数が増加し、管理が必要な個人の情報を適切かつ確実に管理すること、また国の補助金取得により札幌市から職員配置変更に伴う名簿提出を会館ごとに適宜求められるため、システムの導入が急務である。</p> <p>有期雇用の採用にかかる個人データの管理を始め、常勤職員が保有する資格や研修履修記録、異動履歴等が管理でき、これらのデータを一元管理することが可能なシステムを構築することにより、よりスムーズな採用事務や効果的な職員の配置・育成計画および的確な労務管理を行う。</p> <p>※ 参考 平成27年4月より、約200人の職員増（純増）</p> <p>②見守りシステムの新機能（児童来退館通知システム）</p> <p>児童クラブ員を対象とした「児童見守りシステム」の全館導入が済み、27年度は緊急時における保護者向け一斉メール送信機能を追加した。28年度については、児童クラブ員の出欠状況など統計処理機能を追加予定。</p> <p>クラブ員の増加が続く中、時間をかけて行っている作業であるため、自動化することにより、職員が児童や保護者と向き合える時間を創出、確保し、丁寧な対応につなげる。</p> <p>① グループワーク／子ども運営委員会の活動報告（おたより・パネル展等）を地域に向けて年1回以上実施する。</p> <p>②ケースワーク／親子交流事業を年1回以上実施する。</p> <p>③コミュニティワーク／児童会館 PR パネル展を各区年1回以上実施する。</p>



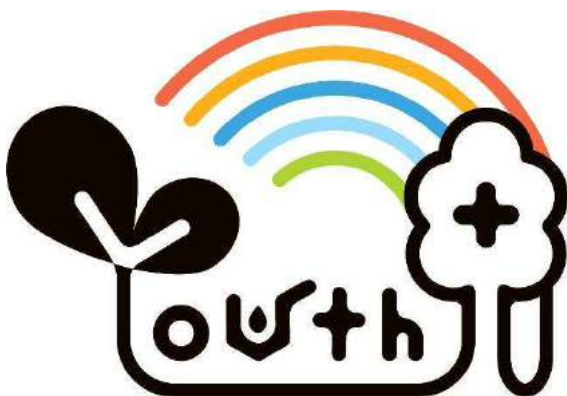
事業内容	時期・回数
<p><b>1 青少年活動支援事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサロン事業</li> <li>・放課後児童クラブ事業</li> <li>・障がいのある児童の受け入れ</li> <li>・中・高校生夜間利用等運営事業</li> <li>・放課後子ども館事業</li> <li>・学習活動（学習レシピの活用等）</li> <li>・札幌まなびのサポート事業「遊學舎 まなべえ」</li> <li>・リーダー育成事業      ・子ども運営委員会</li> <li>・実習等受入事業      ・児童会館実習指導業務</li> </ul> <p><b>2 体験機会創出事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会・発表会（各種発表会等事業）</li> <li>・鑑賞会（人形劇・演劇鑑賞等）</li> <li>・社会奉仕活動（清掃活動、施設訪問、防犯・防火活動等）</li> <li>・環境活動（ごみゼロ大作戦事業、プルタブ大作戦事業）</li> <li>・交流活動（世代間・地域交流、お泊まり会等）</li> <li>・季節活動（歳時記的事業、おまつり等）</li> <li>・野外・自然体験活動事業（キャンプ事業、畑づくり、遠足等）</li> <li>・伝統芸能活動（伝承あそび、生け花、茶道・将棋・華道教室等）</li> <li>・体力増進・スポーツ事業（日常あそび、外あそび、一輪車等）</li> <li>・創作活動・読書活動の推進</li> <li>・スノー&amp;アイスキャンドル大作戦事業</li> <li>・周年事業（10周年：中央小ミニ、三角山小ミニ、拓北小ミニ、豊園小ミニ、平岸高台小ミニ、澄川南小ミニ、藤野南小ミニ、西園小ミニ、新発寒小ミニ／20周年：山鼻かしわ、元町南、丘珠ひばり、あやめ野、みすまい／30周年：麻生、桑園新琴似西、元町、福住、山の手、厚別南）</li> <li>・被災地支援事業      ・外部連携事業</li> </ul> <p><b>3 施設管理運営事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会館の管理運営、貸室事業、危機管理事業</li> </ul>	<p>※実施時期・回数については各会館によって異なるため省略</p> <div data-bbox="1305 860 1430 1115" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1155 1281 1347 1496" data-label="Image"> </div>



事業方針	<p>平成 28 年度は、こぐま座開館 40 周年を迎える。こぐま座・やまびこ座は札幌、北海道はもとより全国の人形劇の普及、発展に努め、人材育成を根幹に捉えた運営形態は全国から注目されこぐま座・やまびこ座に続く劇場も全国各地に建設された。あらためて、この 40 年間に創りあげてきた成果を踏まえ、劇場の存在意義を市民とともに共有し、将来における人形劇文化のさらなる発展のために、劇場のノウハウを生かした地域への積極的な文化支援を行なっていく。</p>				
重点目標	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 712 359 994">地域活動等事業</td><td data-bbox="359 712 1407 994"> <p>①地域社会における文化的役割と意義</p> <p>全国でも数少ない公立の児童文化施設としての役割を明確にし、札幌はもとより北海道、さらには全国に向けて児童文化の普及発展、文化芸術の持つ力を最大限に生かした拡がりある事業を展開していけるよう、関係機関と連携していく。</p> <p>今後はさらに世界へ目を向け、やまびこ座、こぐま座が持つ専門スキルを生かした文化交流や札幌発信の人形劇、人形浄瑠璃等の日本文化の普及にもつなげる。</p> </td></tr> <tr> <td data-bbox="279 994 359 1711">施設運営等事業</td><td data-bbox="359 994 1407 1711"> <p>①人材育成と創造型の劇場運営</p> <p>事業の柱である人材育成を中心に、子どもから大人までより多くの市民が人形劇、児童劇の楽しさ、魅力に触れる機会を提供します。長期的な視野に立った人材育成を目指し、講座やワークショップのより一層の充実を図る。</p> <p>②利用者の目線での施設運営</p> <p>利用者のニーズに柔軟に対応できるようアンケートを実施し、市民サービスに対する意識を高め、安定した運営、環境整備に努めます。職員の専門的知識と技術を高めるための研修を取り入れ、スキル向上を目指す。</p> <p>③児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化</p> <p>人形劇、児童劇等の制作団体との協働により、より良い作品を創造し地域へ発信することで、良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。さらに、地域や他施設へのアウトリーチ活動、劇指導派遣、人形劇普及等に関する積極的な文化支援を行う。また、劇団の育成、支援を継続的に行う。</p> <p>④最小経費で最大効果を</p> <p>事業収入や公的助成、民間資金を引き続き導入し、バランスのとれた経営を意識し、最小の経費で最大の効果を上げるよう運営の効率化と事業の工夫に努める。</p> </td></tr> </table>	地域活動等事業	<p>①地域社会における文化的役割と意義</p> <p>全国でも数少ない公立の児童文化施設としての役割を明確にし、札幌はもとより北海道、さらには全国に向けて児童文化の普及発展、文化芸術の持つ力を最大限に生かした拡がりある事業を展開していけるよう、関係機関と連携していく。</p> <p>今後はさらに世界へ目を向け、やまびこ座、こぐま座が持つ専門スキルを生かした文化交流や札幌発信の人形劇、人形浄瑠璃等の日本文化の普及にもつなげる。</p>	施設運営等事業	<p>①人材育成と創造型の劇場運営</p> <p>事業の柱である人材育成を中心に、子どもから大人までより多くの市民が人形劇、児童劇の楽しさ、魅力に触れる機会を提供します。長期的な視野に立った人材育成を目指し、講座やワークショップのより一層の充実を図る。</p> <p>②利用者の目線での施設運営</p> <p>利用者のニーズに柔軟に対応できるようアンケートを実施し、市民サービスに対する意識を高め、安定した運営、環境整備に努めます。職員の専門的知識と技術を高めるための研修を取り入れ、スキル向上を目指す。</p> <p>③児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化</p> <p>人形劇、児童劇等の制作団体との協働により、より良い作品を創造し地域へ発信することで、良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。さらに、地域や他施設へのアウトリーチ活動、劇指導派遣、人形劇普及等に関する積極的な文化支援を行う。また、劇団の育成、支援を継続的に行う。</p> <p>④最小経費で最大効果を</p> <p>事業収入や公的助成、民間資金を引き続き導入し、バランスのとれた経営を意識し、最小の経費で最大の効果を上げるよう運営の効率化と事業の工夫に努める。</p>
地域活動等事業	<p>①地域社会における文化的役割と意義</p> <p>全国でも数少ない公立の児童文化施設としての役割を明確にし、札幌はもとより北海道、さらには全国に向けて児童文化の普及発展、文化芸術の持つ力を最大限に生かした拡がりある事業を展開していけるよう、関係機関と連携していく。</p> <p>今後はさらに世界へ目を向け、やまびこ座、こぐま座が持つ専門スキルを生かした文化交流や札幌発信の人形劇、人形浄瑠璃等の日本文化の普及にもつなげる。</p>				
施設運営等事業	<p>①人材育成と創造型の劇場運営</p> <p>事業の柱である人材育成を中心に、子どもから大人までより多くの市民が人形劇、児童劇の楽しさ、魅力に触れる機会を提供します。長期的な視野に立った人材育成を目指し、講座やワークショップのより一層の充実を図る。</p> <p>②利用者の目線での施設運営</p> <p>利用者のニーズに柔軟に対応できるようアンケートを実施し、市民サービスに対する意識を高め、安定した運営、環境整備に努めます。職員の専門的知識と技術を高めるための研修を取り入れ、スキル向上を目指す。</p> <p>③児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化</p> <p>人形劇、児童劇等の制作団体との協働により、より良い作品を創造し地域へ発信することで、良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。さらに、地域や他施設へのアウトリーチ活動、劇指導派遣、人形劇普及等に関する積極的な文化支援を行う。また、劇団の育成、支援を継続的に行う。</p> <p>④最小経費で最大効果を</p> <p>事業収入や公的助成、民間資金を引き続き導入し、バランスのとれた経営を意識し、最小の経費で最大の効果を上げるよう運営の効率化と事業の工夫に努める。</p>				
数値目標	<p>(1) やまびこ座・こぐま座ともに年間上演日数 120 日、公演数 200 回以上の確保</p> <p>■平成 26 年度実績：やまびこ座 133 日 205 回、こぐま座 143 日 221 回</p> <p>(2) 3 団体以上の新規人形劇団の誕生、育成</p> <p>■平成 26 年度実績：4 団体</p> <p>(3) 年間利用者数、やまびこ座 55,000 人、こぐま座 15,000 人の確保</p> <p>■平成 26 年度実績：やまびこ座 56,552 人 こぐま座 17,493 人</p> <p>(4) 利用者アンケートの総合満足度 85%以上</p> <p>■平成 26 年度実績：やまびこ座 89%、こぐま座 89%</p>				

事業内容	時期・回数
<b>1. 青少年活動支援事業</b> 人材育成事業(一般対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初心者のための人形劇講座、経験者のための人形劇講座</li> <li>・ 東区市民劇団育成事業</li> <li>・ 人形浄瑠璃講習会 ・ 義太夫講習会</li> <li>・ 手作り絵本講習会、腹話術初心者入門講座</li> <li>・ 指導派遣事業 砂川人形劇創作体験プログラム</li> <li>・ 舞台照明講座、短期特別講習会、劇団育成支援事業</li> </ul> 人材育成事業(子ども対象) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第24期やまびこ座遊劇舎</li> <li>・ 第14期 劇☆やまびこ座 YOUTH</li> <li>・ ざ・にんぎょうじょうるりユースクラス</li> <li>・ 義太夫講習会 ・ 手作り絵本講習会</li> <li>・ こぐま座こども人形劇団</li> <li>・ パペットユースクール</li> <li>・ こども舞台体験プログラム「ふれアート」</li> </ul>	4～7月 13回／5～10月 10回 5～10月 25回 6～12月 17回／5～12月 16回 8月 2回／9～10月 3回 9～3月 20回 通年随時  5～12月 35回 6～1月 35回 6～12月 20回 5～12月 16回 / 8月 2回 5～3月 40回 6～1月 30回 8月、10月、1月 3回
<b>2. 体験機会創出事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元町北小学校アウトリーチ事業</li> <li>・ 読み語りの会</li> </ul> 地域連携事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 やまびこ座夏まつり</li> <li>・ さっぽろアートステージ (シアターゴラウンド2016)</li> <li>・ 中島児童会館協働事業 (①開館記念祭／②あそびの劇場／③読み語り入門講座)</li> </ul> 公演事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏の特別公演～野外人形劇「ピノキオ」&amp;人形劇フェスティバル</li> <li>・ やまびこ座プロデュース公演</li> <li>・ プロデュース人形劇『北海道の人形劇シリーズ Part. 3』</li> <li>・ 第45回札幌人形劇祭</li> <li>・ 『座・競演 Vol. 7』</li> <li>・ 共催公演・依頼公演</li> </ul> その他事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続被災地支援活動 (チャリティー公演、福島支援人形劇等)</li> <li>・ 人形劇スタンプラリー、物品販売事業、事業サポーター制度</li> <li>・ こどもの劇場通信</li> <li>・ 市民ボランティア「やまびこ座たのしませ隊」 ・ 企画展示</li> <li>・ 札幌・ポートランド姉妹都市交流事業</li> <li>・ こども育成課との連携事業</li> </ul>	  6～12月 通年(毎週水曜日)  8月 2日間 11月、12月 ①7月／②1月 ③11～12月 7回  5～8月 25回 11～3月 30回 6～12月 30回 11月 3日間 9月 2日間 随時  5～3月 通年 年6回発行 通年 8月 7日間 5～3月  他 他
<b>3. 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども劇場の管理運営業務、貸室事業、入場料の徴収</li> </ul>	通年

事業方針	<p>平成21年4月に策定された「若者支援基本構想」が平成31年度までを対象期間としていることから、第二次構想の策定も視野に入れながら事業を展開していく。</p> <p>具体的には、事業を通じて関わる若者や地域若者サポーターの声（ニーズ）を聞くこと、記録すること、活かすこと、をこれまで以上に推進する。</p> <p>また、職員の育成にあたっては、子ども・若者支援に関わる業界全体に目を向け、知識や技能、考え方を採り入れながら、OJTを通じて内部共有（全体の底上げ）を図っていく。</p>				
重点目標	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 792 359 1182">地域活動等事業</td><td data-bbox="359 792 1417 1182"> <p>「地域若者サポーターとの協同から協働へ」</p> <p>平成27年度は、地域若者サポーター（基本構想で定義：利用者0Bや各施設の地域で若者の活動をサポートしていただける方）と事業の企画段階での協同に取り組んできた。</p> <p>今後は事業の企画段階のみならず、共に若者を育てるパートナーとして中長期的に協働を目指す。28年度は様々な“協働の形”を試行・実践していく。</p> <p>※地域若者サポーター登録目標人数 <u>全館合計100人</u> （内訳：総合20人、アカシア15人、ポプラ25人、豊平20人、宮の沢20人）</p> </td></tr> <tr> <td data-bbox="279 1182 359 1487">施設運営等事業</td><td data-bbox="359 1182 1417 1487"> <p>「若者との継続した関わりづくり」</p> <p>施設の内外で若者と出会い、継続的に関わる機会を創出する。単発のイベント参加や一過性のロビーワークに終わることなく、若者の成長に寄り添っていく。その過程を通じて若者のニーズ把握や実践の記録・蓄積、サポーターとの協働を実現する。</p> </td></tr> </table>	地域活動等事業	<p>「地域若者サポーターとの協同から協働へ」</p> <p>平成27年度は、地域若者サポーター（基本構想で定義：利用者0Bや各施設の地域で若者の活動をサポートしていただける方）と事業の企画段階での協同に取り組んできた。</p> <p>今後は事業の企画段階のみならず、共に若者を育てるパートナーとして中長期的に協働を目指す。28年度は様々な“協働の形”を試行・実践していく。</p> <p>※地域若者サポーター登録目標人数 <u>全館合計100人</u> （内訳：総合20人、アカシア15人、ポプラ25人、豊平20人、宮の沢20人）</p>	施設運営等事業	<p>「若者との継続した関わりづくり」</p> <p>施設の内外で若者と出会い、継続的に関わる機会を創出する。単発のイベント参加や一過性のロビーワークに終わることなく、若者の成長に寄り添っていく。その過程を通じて若者のニーズ把握や実践の記録・蓄積、サポーターとの協働を実現する。</p>
地域活動等事業	<p>「地域若者サポーターとの協同から協働へ」</p> <p>平成27年度は、地域若者サポーター（基本構想で定義：利用者0Bや各施設の地域で若者の活動をサポートしていただける方）と事業の企画段階での協同に取り組んできた。</p> <p>今後は事業の企画段階のみならず、共に若者を育てるパートナーとして中長期的に協働を目指す。28年度は様々な“協働の形”を試行・実践していく。</p> <p>※地域若者サポーター登録目標人数 <u>全館合計100人</u> （内訳：総合20人、アカシア15人、ポプラ25人、豊平20人、宮の沢20人）</p>				
施設運営等事業	<p>「若者との継続した関わりづくり」</p> <p>施設の内外で若者と出会い、継続的に関わる機会を創出する。単発のイベント参加や一過性のロビーワークに終わることなく、若者の成長に寄り添っていく。その過程を通じて若者のニーズ把握や実践の記録・蓄積、サポーターとの協働を実現する。</p>				



## (1) 利用証の発行人数

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
13,920 人以上	14,400 人 (見込)	14,562 人

## (2) 若者登録者の延べ利用数

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
192,000 人以上	206,000 人 (見込)	199,163 人

## (3) 自立支援の新規相談登録者数

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
札幌	400 人以上	330 人 (見込)	438 人
岩見沢	100 人以上	65 人 (見込)	※年度途中の受託により比較数値なし

## (4) 進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
札幌	320 人以上	310 人 (見込)	251 人
岩見沢	70 人以上	45 人 (見込)	※年度途中の受託により比較数値なし

## (5) 登録若者団体数

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
415 団体以上	335 団体 (見込)	523 団体

## (6) 地域活動サポーターと共に企画した事業に参加した若者の延べ人数 (新規)

平成 28 年度	平成 27 年度	
5,800 人以上	5,160 人 (見込)	※平成 27 年度より設定



事業内容	時期・回数
<b>1. 体験機会創出事業</b>	
(ア) 自立支援事業	
・ 自立支援相談窓口の開設 総合相談、心理相談	通年随時
・ 自立支援プログラム	
(1) 初期支援プログラム（食談会、ヨガ、創作会、女子会 ほか）	通年 140 回
(2) 就労支援プログラム（ワーカーズファーム、就活イロハ塾 ほか）	通年 120 回
(3) 仕事体験（ジョブトレーニング）	通年随時
(4) 定着・ステップアッププログラム（同窓会 ほか）	通年 60 回
(5) 若者以外対象事業～家族の会	随時 12 回
・ 自立支援事業広報	
(1) 出張説明・相談会	12 回
(2) 子ども・若者支援セミナー	10 月
(3) 視察受入と講師派遣	通年随時
・ 自立支援その他事業	
(1) 施設活用型訓練（若者支援総合センター ほか）	通年
(2) 自立支援プログラムへの協力・連携 他	通年
(イ) 交流促進事業	
・ 情報収集・提供（情報コーナー設置、ホームページ運営）	通年
・ ENGINE-LINK 構築、情報交換会	12 回（全館）
・ 若者舞台芸術祭 Sapporo Mix Art	3 月（豊平）
・ 若者層を対象としたミニワークショップ事業	通年随時
・ 交流促進講座「新規利用者獲得講座」、「協働企画事業」	通年
・ 若者交流相談 ロビー相談・カフェ、コピー・印刷業務	通年随時
・ 交流促進講座（ワークショップ、YOUTH CUP、マイプロデュース、 ロビーライブコンサート等のフリースペースの活用）他	通年随時
(ウ) 社会参加促進事業	
・ 地域活動ネットワーク構築	通年随時
・ 社会参加意識の啓発 ボランティア・地域事業への参加	通年随時
・ 社会参加促進講座 地域事業への参加講座	通年（各館）
・ 地域若者サポーター座談会（ポプラ）	6 月、3 月 2 回
・ 雪まつり人材育成講座（ポプラ）	11～2 月 20 回程度
・ まちづくり人材育成事業（豊平）	通年随時
・ 自立した活動に向けた「団体育成事業」（アカシア）	通年 最大 6 団体
・ 地域アプローチ白石 MAP プロジェクト（ポプラ）	6～3 月 15 回程度
・ 白石区役所区民共同イベントスペース（仮称）展開事業 他	11 月開始予定
(エ) 地域連携事業	
・ さっぽろ子ども・若者支援地域協議会の運営（総合センター）	通年随時
・ 全国若者支援ネットワーク機構への参画	通年随時
・ 地域実行委員会への参画	随時
・ ジョブトレーニング・インターシップ・実習等の受入れ（アカシア ほか）	通年随時
・ 地域若者サポーターの獲得（全館）	通年随時

事業内容	時期・回数
<b>2 受託事業</b> (1) 地域若者サポートステーション事業（札幌市、岩見沢市） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域若者サポートステーションの受託</li> <li>・情報収集・提供 ホームページ管理</li> <li>・相談窓口の拡充 継続相談</li> <li>・相談窓口の広報 パンフレットの発行</li> </ul> (2) 札幌市委託事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市中学校卒業業者等進路支援事業</li> <li>・札幌市社会体験機会等創出事業</li> <li>・市立大通高等学校支援事業</li> <li>・市立高校外部人材活用支援事業</li> <li>・若者のまちづくり活動参加促進事業 ※平成 27 年度実績</li> </ul>	通年 通年 通年随時 通年随時／1 回  通年随時（予定） 通年随時（予定） 通年随時（予定） 通年随時（予定） 通年随時（予定）
<b>3 調査研究事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用登録時のアンケート実施</li> <li>・テーマを決めた調査研究</li> <li>・若者を取り巻く環境の調査</li> </ul> 他	通年随時 7、11、3 月 通年随時
<b>4 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務</li> <li>・若者施設貸室事業、物品貸出等</li> </ul>	通年 通年
<b>5 その他の事業</b> (1) 広報事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>若者支援施設刊行広報物作成</li> <li>施設愛称・ロゴの周知</li> </ul> (2) 職員の専門性の獲得	3 月 通年 通年



事業方針

重点目標

数値目標

(1) 協会所有施設であることの強みを活かし、施設及び周辺フィールドを活用した特色ある自然体験活動事業を実施し、青少年の健全育成の実現を目指す。

(2) 野外教育施設や他セクションとの連携および協働により、自主事業の拡充や、幅広く指導事業を推進し、より効率的な事業運営を行う。

(3) 施設利用モデルプログラムの提案や、実施した活動プログラムの実践報告などを積極的に行い、協会内部事業での有効活用や、新規利用者の獲得を目指す。

【事業】

①市民のニーズをとらえたプログラムデザインによる事業実施

②協会内の野外教育施設連携での事業運営による新たな価値の創造

【管理】

①計画的な施設の維持管理

②裏山を中心とした活動フィールドの整備

施設利用人数（学園事業参加者含む）

目標人数 延べ 6,195 人（昨年度の 5%増）

■ 過年度実績

年 度	利用延べ人数	備 考
平成 27 年度	5,900 人	※見込み人数
平成 26 年度	6,138 人	
平成 25 年度	4,783 人	
平成 24 年度	5,171 人	※福島支援事業実施のため 人数増

事業内容	時期・回数
<b>1 体験機会創出事業</b> 自然体験活動事業 <b>【幼児対象事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たきの森のようちえん親子コース</li> <li>・たきの森のようちえん特別編</li> </ul> <b>【小学生対象事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たきの森のがっこう（小学１年生～６年生）</li> <li>・遊習塾リトルキャンプ（小学１年生～３年生）</li> </ul> <b>【親子等対象事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人のための自然学校</li> <li>・お父さんと過ごす週末キャンプ</li> <li>・親子キャンプ</li> </ul> <b>【その他】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動指導者養成事業</li> </ul>	５月～２月 ３５回 通年３回程度  ５月～２月 ９回 ８、３月 ３回  通年４回 通年２回 ７～８月 １回  通年
<b>2 職員派遣事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の指導業務</li> </ul>	未定
<b>3 団体支援事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども基金事業</li> </ul>	通年
<b>4 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝野自然学園プログラム開発</li> <li>・滝野自然学園の管理運営、貸室事業等</li> </ul>	通年 通年





## 事業方針

社会ニーズや地域課題が多様化するなか「時代・流行」へのアンテナを張りながら、当協会がこれまで積み上げてきた「不易なもの」を根幹に独自性を表現することで、新規事業の開拓、既存事業の強化に取り組む。

また、財団広報事業担当課として、市民へ「人とのつながり」、「直接体験」の有用性についての情報発信に取り組む。

## 重点目標

## 地域活動等事業

- ①新規事業・クライアントの開拓
- ②当協会保有備品・物品の有効活用と適正な管理
- ③事業推進に必要な職員（人材）の育成

## 数値目標

(1) イベント事業収益総額 7,000 万円以上

【収益性向上】

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
7,000 万円以上	7,500 万円（見込）	5,032 万円

(2) コスト管理 各事業実収益率 35%以上の確保（約 2,450 万円以上）







事業方針

指定管理業務2期3年目を迎え、提案内容を確実に遂行するとともに、これまでの管理業務を通して蓄積された専門業務における記録・マニュアル化・伝承を行ない、よりよい施設運営に努める。

自然環境と地域住民が密接に関わってきた歴史をもつ南区白川の地域環境を活用し、農作物、動植物、博物、食育、歴史、環境社会などについて、幅広く学習機会を提供していく。

地域住民との関わり及び市民ボランティア事業における人材育成、事業協力者等の多様な市民力をいかした事業を展開し、地域社会との積極的な関わりや人材育成の拡充に向け推進していく。

重点目標

地域活動等事業

- ①自然散策活動を手法とした地域資源の活用
- ②事業連携等を通じた地域との関係づくり
- ③市民ボランティア自主的活動の充実と研修等を通じたボランティア活動の支援

施設運営等事業

- ①施設内及び園内の環境整備の徹底  
(農園、水田の維持管理の強化、園内樹木の整備、危険昆虫・動物等野生生物からの防除)
- ②自然環境情報及び施設PRのための情報発信の強化  
(ホームページの定期更新、SNS等の活用)
- ③施設内外における情報提供を充実し、学習館入館(観覧)利用増を図る
- ④市民ボランティア及び事業協力者と協働した事業展開  
(ボランティア活動の内容充実と地域との連携強化)
- ⑤冬期来園者に向けた事業プログラムの開発  
(屋内・屋外の利点を活用した事業プログラム及び冬期のフィールド活用)
- ⑥部内各施設(青少年山の家、定山溪自然の村、滝野自然学園)との連携による人材育成

数値目標

(1) 学習館入館(観覧)者数の増

平成28年度	平成27年度	平成26年度
3,500人	3,050人(見込)	3,356人

(2) 貸室利用(利用料金等)

平成28年度	平成27年度	平成26年度
35,000円	18,300円(見込)	33,100円

事業内容	時期・回数
<b>1 体験機会創出事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験事業（体験農場）</li> <li>・教材用生物の提供事業</li> <li>・自然観察・採集等の学習機会の提供</li> <li>・自然体験学習機会の提供（自然体験学習会）</li> <li>・自然体験・展示に関する情報収集・提供事業</li> <li>・白川市民の森スノーシューウォーキング</li> <li>・地域住民の自主的な活動及び交流支援事業</li> <li>・自然ふれあい事業</li> <li>・市民ボランティア事業</li> <li>・自然体験や展示に関する相談業務</li> <li>・自然観察、飼育栽培に関する研修事業</li> <li>・教職員研修事業</li> <li>・自然ふれあい事業</li> <li>・団体指導事業（指導依頼対応）</li> <li>・インターンシップ・実習等の受入れ</li> <li>・広報業務</li> <li>・物品販売事業</li> </ul>	5月～3月 通年飼育 6月配布 通年（飼育体験：小学校長期休業期間） 6月 随時 2月 自然素材8回 生物2回 通年随時 通年随時 2回 展示11回／交流4回／自然観察・創作 随時 通年随時 通年随時 通年随時 通年随時 通年 通年
<b>2 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北方自然教育園の管理運営</li> </ul>	通年



事業方針

指定管理者3期3年目を迎える平成28年度は、提案内容を確実に遂行するとともに、平成30年度より迎える4期目の指定管理業務提案を見据え、新たな事業スタイルの探求に努める。

定山溪地区に位置する施設として「自然・歴史・風土」の様々な資源を有効活用し、地域に根ざした施設運営に努めるとともに、自然体験活動プログラム及び各種野外活動プログラムをととして、市民が自然に親しみ・理解を深めながら交流や親睦を深めることができる場所と時間を提供する。

地域活動等事業

- ①自主事業の発展  
(企業と連携したイベントの実施と可能性の検討)
- ②発展的事業の推進  
(遊々の森を活用した環境保全活動プログラムの充実化)

重点目標

施設運営等事業

- ①貸室事業におけるサービスの質的向上  
(会員登録・限定イベントの実施、企業協賛事業の推進、施設老朽化に伴う施設の維持管理、計画的修繕、衛生管理状態の維持・向上、貸出及び提供物品の見直し)
- ②初心者のための野外活動支援強化  
(キャンプ初心者講習の充実、初心者ファミリーを対象とした事業の充実)
- ③市民の企画による自然体験事業支援の推進  
(持込支援事業の強化、ボランティアの自主的活動支援強化)
- ④広報活動の積極的な推進及びビジターコーナーの強化  
(ホームページ・SNS等の有効活用、野外活動系専門誌へのプロモーション)
- ⑤能力・専門性を高めるための研修強化  
(新規事業開発やリノベーションに向けた環境整備)
- ⑥部内各施設(青少年山の家、定山溪自然の村、滝野自然学園)との連携による人材育成

数値目標

(1) 平日の施設利用件数の増加(前年度比5%増)

平成28年度	平成27年度	平成26年度
611件	582件(見込)	421件

(2) 下半期の施設利用件数の増加(前年度比10%増)

平成28年度	平成27年度	平成26年度
950件	864件(見込)	765件

(3) ボランティア主体的活動実績の増加

平成28年度	平成27年度	平成26年度
505回	459回(見込)	450件



事業内容	時期・回数
<b>1 体験機会創出事業</b>	
(1) 自然体験活動	
・ファミリーキャンプ〈初心者キャンプ〉	6 回
・おしえてキャンプマスター〈野外活動支援〉	通年随時
・シルバー定山溪さんぽ〈初心者ハイキング〉	8 回
・スノーアクティビティ	12～3 月随時
・昆虫博士キャンプ〈学習支援〉	夏休み 3 回
・定山溪森のようちえん〈子育て支援〉	9 回
・キャンプの達人〈野外活動体験〉	毎週土曜日
(2) 交流促進事業	
・大人のためのプレミアムキャンプ〈交流活動・活動提案〉	2 回
・ようこそ北海道ファミリー〈自然体験・交流活動〉	4 回
・キャンプファイヤー〈相互交流・親睦〉	50 回
・フルーツ・スイーツ倶楽部〈活動提案・交流〉	1 回
・ヴィレッジ・ナイトカフェ〈癒し・交流〉	4 月
・定山溪ウィンターフェスティバル〈冬季野外活動提案〉 他	1 月
地域連携事業（関連団体等との協力体制づくり）	
・地域連携事業、企業協賛事業、公的施設等連携事業、 野外系施設連携事業、観光協会タイアップ事業、教育機関 タイアップ事業	通年随時
人材育成事業（ボランティア育成・活動サポート）	
・アクティビティ、森林ガイド 各ボランティア	通年随時
・ボランティア主体事業（森の工作会、森のガイドウォーク 他）	通年随時
・森もりレンジャー〈人材発掘・活用〉	年 6 回
・市民活動支援事業（持込支援事業、ボランティア登録 他）	通年随時
情報提供事業（プログラム紹介・団体利用誘致・資料発行等）	
・自然体験プログラムの出前事業、団体利用・事業プロモーション、 会員登録情報提供、ビジターコーナー、プレスリリース	通年随時
プログラム開発・研究事業（事業企画・意見収集等）	
・調査・研究事業／広報・情報収集／試行・提案事業	通年随時
・持込事業支援〈会場提供・活動支援〉	通年随時
その他事業	
・活動サポート事業（ハンゴウ体験会、ナイトハイク、暖炉・絵 本の会、焚火を楽しむ会、団体向けサポート事業）	通年随時
・自然体験事業（石釜料理体験、ドラム缶風呂体験、わくわくら りー、遊歩道クイズ、アドベンチャーエリア&ミュージアムエリア）	通年随時
<b>施設管理運営事業</b>	
・定山溪エコ事業〈施設管理等〉	通年
・定山溪自然の村管理業務、貸室事業、物品貸出等	通年



事業方針

札幌市青少年山の家を設置目的及び社会的課題への対応を常に念頭におきながら、札幌市における野外教育の拠点施設として従来の形にとらわれることなく、時代に即した新しい運営スタイルの確立と創造的かつ魅力的な施設運営を目指す。

また、新たなプログラム開発を行うと同時に、より効果的な体験活動が実現できるよう地域との連携強化に努め、滝野の地域資源を最大限活用する取り組みを推進する。

第 2 期指定管理期間の 2 年間の検証を確実にを行い、施設運営、事業実施に生かしていく。

重点目標

施設運営等事業

①地域との連携強化

滝野町内会・連合町内会、滝野公園管理者など近隣地域との連携をさらに強めていくとともに、地域資源を活用したプログラム開発を行い、地域と協同しながら施設運営に取り組む。

②ボランティアスタッフの育成

①『ボランティアスタッフ間による育ちあい』、②『自主運営』、③『新規ボランティアの発掘と育成』の 3 つをテーマに、新たなボランティア活動のしくみを作り上げていく。

③人材育成

施設内研修はもちろん野外施設部（札幌市定山溪自然の村、札幌市北方自然教育園、札幌市滝野自然学園）として、次世代を担う高い専門性をもった職員を育成していく。施設間での連携を図ることで経費や資源の有効活用を図る。また、スケールメリットを生かし活動協会他施設との連携事業を行い、その中で職員の経験値をあげていく。

④管 理

さまざまな利用者が、より安全に施設を使いやすくするため、設備の充実や修繕を行う等、管理計画の立案をする。

数値目標

(1) 施設利用人数の増加

\* 目標利用人数 75,100 人 (延べ 69,860 人・下見等 5,240 人の見込)

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
75,100 人	74,500 人(見込)	69,897 人

※1 H26/10/27～12/31 まで大規模改修により 66 日休館

(2) 施設利用満足度 80%以上 (アンケート調査を実施)

平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
80%以上	87.6%(見込)	91.5%

事業内容	時期・回数
<b>1 体験機会創出事業</b> (1) 青少年キャンプ事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トライキャンプ</li> <li>・はじめてのスキーキャンプ</li> <li>・防災サバイバルキャンプ</li> <li>・ホップ・ステップ・キャンプ！！</li> </ul> (2) 生涯学習事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察ハイキング</li> <li>・親子しめ飾り作り体験会</li> <li>・冬休み染め物教室</li> </ul> (3) 人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者ワークショップ</li> <li>・ボランティアスタッフ活動支援</li> <li>・ボランティアスタッフフォローアップ研修会</li> <li>・キャンプリーダー研修会</li> </ul> (4) 団体支援事業           ① 活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用団体支援</li> <li>・利用事前説明会</li> <li>・利用事前下見会</li> <li>・出前授業</li> </ul> ② 利用促進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校利用抽選会</li> <li>・野外教育・施設に関する情報の発信</li> <li>・ヒグマトランクキット出張事業</li> <li>・活動プログラム集の改訂</li> <li>・活動プログラムの開発</li> </ul>	7月 5泊6日 1月 2泊3日 日帰り3回 宿泊2回 6・7・8・9・10月 年5回  5・6・9・10・2月 年5回 12月 年1回 1月 年1回  2月 1回 通年 通年 年5回程度 日帰り7回 宿泊3回  通年随時 4・5・6・7・9・10・12月 年7回 6・7・8・1月 年4回 通年 70校程度  5月 1回 通年随時 通年随時 通年随時 通年随時  通年 通年
<b>2 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年山の家管理業務</li> <li>・青少年山の家貸室事業、物品貸出等</li> </ul>	通年 通年



公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

重点目標

数値目標

多様性に富んだ市民が集う、まちの活力を高める活動の拠点をを目指す。

<場をつくる>意見交流と情報交換が行われるコミュニケーションの場を提供する。

<心を動かす>さまざまな市民参画の行動への動機となるような刺激を提供する。

<行動への後押し>資源を最大に活かしたまちづくり活動の始動・拡大を支援する。

<コスト・マネージメント>施設管理における省エネルギーと経費の削減に努める。

地域活動

施設運営

①ニーズを捉えた利便性の向上と札幌市や国の施策を反映した独自事業の実施。

①施設管理における施設・設備を維持するため、計画的なメンテナンスを行う。

②各分野の拠点施設として、将来を見据えた事業展開を行う。

(1)施設全体管理

施設総利用者数 年間 700,000 人

平成 28 年度	平成 27 年度
700,000 人	665,000 人（見込）

(2)男女共同参画センター

男女共同参画の啓発事業の回数

平成 28 年度	平成 27 年度
65 回	65 回（見込）

(3)市民活動サポートセンター

研修学習事業（講座）の定員充足率

平成 28 年度	平成 27 年度
80%	109%（見込）

市民活動相談件数

平成 28 年度	平成 27 年度
900 件	624 件（見込）

(4)環境プラザ

事業での連携団体数

平成 28 年度	平成 27 年度
40 団体	34 団体（見込）

(5)情報センター

ライブラリーサロン実施団体 20 団体

平成 28 年度	平成 27 年度
20 団体	10 団体（見込）

事業内容	時期・回数
<b>1 活動支援事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く女性のためのキャリア支援事業「コワーキングスペース」</li> <li>・女性のためのカフェ起業講座</li> <li>・働く女性のためのキャリア支援事業</li> <li>・男女共同参画団体支援事業</li> <li>・ガールズ相談</li> <li>・女性のための総合相談</li> <li>・女性のための法律相談</li> <li>・女性のための仕事の悩み相談</li> <li>・健康支援事業</li> <li>・環境活動団体の支援</li> <li>・環境教育教材の貸出業務</li> <li>・スタート支援・インキュベーション事業</li> <li>・国際交流支援事業</li> </ul> <p>他</p>	<p>通年 7～11月 全2回 通年 全45回程度 通年随時 8～9月 全24回程度 通年 189回 通年 35回 通年 50回 9月 2回程度 随時 通年随時 5、8、10、11、2月 5回 9月 1回程度</p>
<p>人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・若者への男女共同参画啓発事業</li> <li>・男性のためのエンパワーメント事業</li> <li>・誰もが子育てしやすい環境づくり事業</li> <li>・女性に対する暴力をなくすための事業</li> <li>・男女共同参画の視点に基づく学習の充実</li> <li>・サポーター事業</li> <li>・市民活動相談</li> <li>・相談員研修</li> <li>・子どもボランティア体験プログラム</li> <li>・さっぽろ子ども記者</li> <li>・NPO インターンシップ</li> <li>・寄付月間キャンペーン事業</li> <li>・環境プラザこどもエコクラブ</li> <li>・こどもエコクラブ交流会</li> <li>・教育機関への学習支援</li> <li>・環境教育リーダー全体会</li> <li>・環境保全アドバイザー全体会</li> <li>・ESD 促進集会事業</li> <li>・教師対象研修</li> <li>・情報発信講座</li> <li>・ホリデーテレーリングの登録</li> <li>・情報リテラシー</li> <li>・ブックトーク</li> <li>・環境プラザオリジナルプログラムの汎用化</li> </ul> <p>他</p>	<p>通年 全10回程度 通年 全2回程度 通年 全32回程度 9～11月 全2回程度 通年 全18回程度 通年 2回程度 通年 9、3月 全2回 7～8月 1月 1回 7～11月 全5回 12月 1回 5～10月 全10回 4～3月 年3回 通年 5～7月 年1回 5月 年1回 年2回 11月予定 7～12月 年3回 7～10月 年1回 年3回 年1回</p>

事業内容	時期・回数
<b>地域連携事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北8条通アマとホップのフラワーロード事業</li> <li>・キャンドルナイト事業</li> <li>・エルプラまつり</li> <li>・環境関連施設等連携事業</li> <li>・こどもエコクラブ札幌事務局機能</li> <li>・企業と学校のマッチング</li> </ul>	5月 1回 6月 1回 9月 1回 随時 通年 随時
<b>2 職員派遣事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育リーダー派遣制度</li> <li>・環境保全アドバイザー派遣制度</li> <li>・児童・生徒への学習機会の提供(アウトリーチ事業)</li> <li>・環境プラザがやってきた(アウトリーチ事業)</li> </ul>	通年 年 100件程度 通年 年 40件程度 6～11月 年 1回 随時 年 2件程度
<b>3 情報発信事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画情報誌「りぷるさっぽろ」の発行</li> <li>・ホームページの管理等インターネット活用事業</li> <li>・男女共同参画ワークショップ事業</li> <li>・HP「さっぽろまちづくり総合情報ポータル」の管理運営</li> <li>・市民活動情報誌「みんなのしみサポ」の発行</li> <li>・掲示コーナーの拡充、情報発信サポート事業</li> <li>・講師派遣パンフレット・ポスター作成業務</li> <li>・図書等整理・貸出業務</li> <li>・キャンペーン型情報発信</li> <li>・地下歩行空間「市民まちづくり活動情報コーナー」広報事業</li> <li>・NPOとの出会い創出事業「マチなか×NPO」</li> </ul>	6～2月 年 3回 通年 通年 全 4回程度 通年 5、8、11、2月 年 4回 通年 3月 年 1回 通年 通年 通年 11月 全 1回
<b>4 施設管理運営事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エルプラザ公共4施設の管理業務</li> <li>・エルプラザ公共4施設の貸室事業、物品貸出等</li> </ul>	通年 通年





## VII 施設一覧

### (1) 自主運営施設

	施設名	所在地	施設内容
1	滝野自然学園	南区滝野 106 番地	宿泊室、集会室、食堂、 野外炊事場等

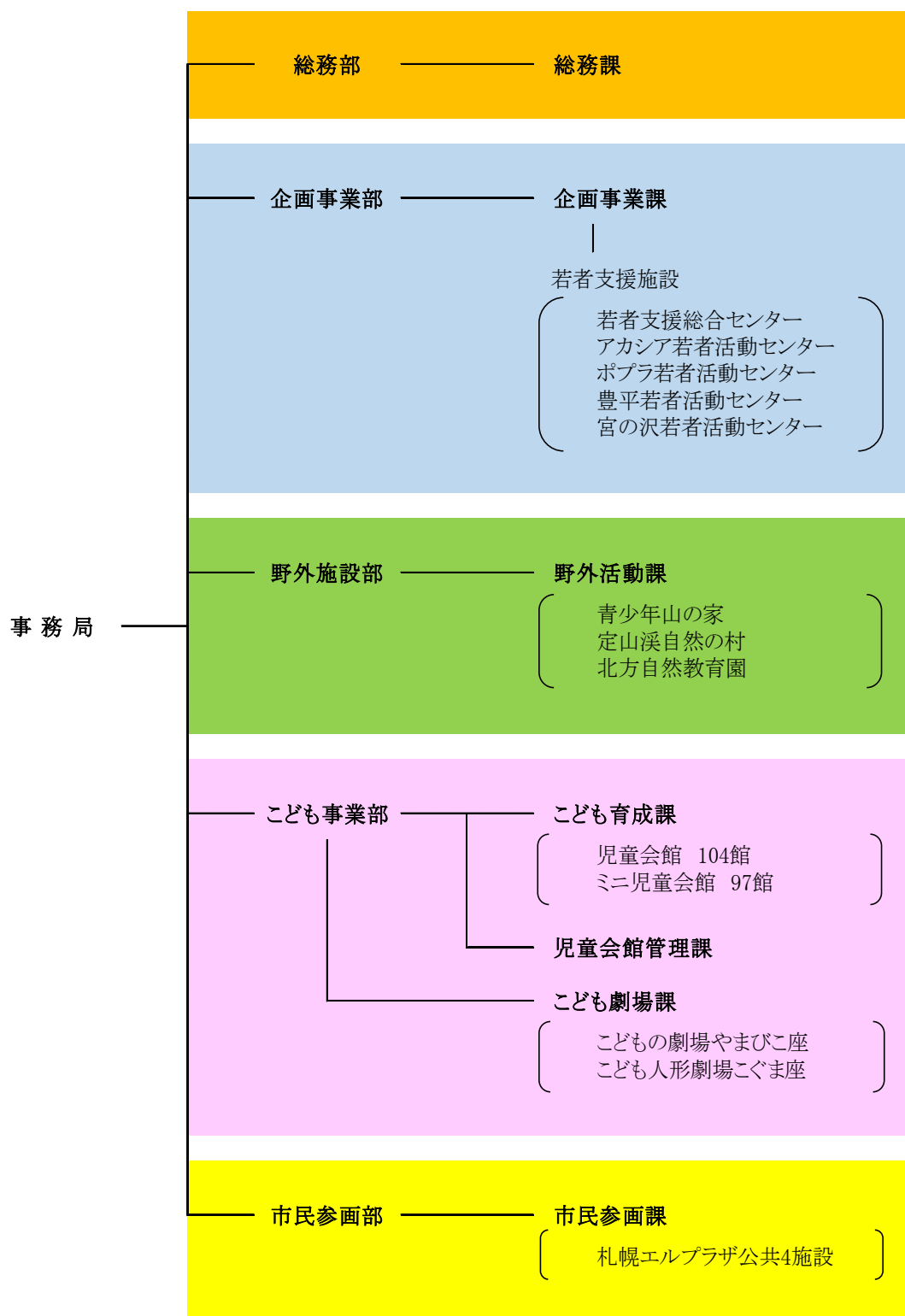
### (2) 指定管理施設

	施設名	所在地	施設内容
1	児童会館	札幌市内 104 か所	体育室、プレイルーム等
2	こども人形劇場こぐま座	中央区中島公園 1-1	ホール
3	こども劇場やまびこ座	東区北 27 条東 15 丁目	ホール、工作室、研修室、 会議室
4	若者支援総合センター	中央区南 1 条東 2 丁目	活動室等
5	アカシア若者活動センター	東区北 22 条東 1 丁目	活動室、和室、音楽室 体育室等
6	ポプラ若者活動センター	白石区東札幌 2 条 6 丁目	活動室等
7	豊平若者活動センター	豊平区豊平 8 条 11 丁目	活動室、和室、体育室等
8	宮の沢若者活動センター	西区宮の沢 1 条 1 丁目	活動室、音楽スタジオ、 体育室等
9	札幌市北方自然教育園	南区白川 1814	展示室、工作室、多目的室
10	札幌市定山溪自然の村	南区定山溪	コテージ、テントサイト 野外炊事棟
11	札幌市青少年山の家	南区滝野 247	宿泊室、研修室、多目的ホール 野外炊事場等
12	札幌市男女共同参画 センター	北区北 8 条西 3 丁目	研修室、会議室、料理実習室 託児室、ホール等
13	札幌市市民活動サポート センター	同上	事務ブース、会議コーナー等
14	札幌市環境プラザ	同上	環境研修室
15	札幌市消費者センター	同上	

### (3) 受託施設

	施設名	所在地	施設内容
1	札幌市ミニ児童会館	札幌市内 97 か所	小学校内併設

## VIII 平成 28 年度 機構図









公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会